

第二回 建物視察会は 神戸・淡路地域の建物を巡り400年の歴史を誇る淡路瓦の工場や大工道具の展示館等の見学と、関西地区所在の会員・設計事務所・施工会社等からも参加を得て実施いたしました。折からの台風の影響で小雨交じりの天候でありましたが、2日間事故もなく無事に終えることができました。各施設では専門の方から詳しい説明を受けることで一般の見学者では知ることの出来ない貴重な情報を得る事ができました。

東京地域より20名、関西・中部地域より14名の参加を得て施設の見学や夕食会ではそれぞれが気軽に情報交換を進めると共にお酒も加わり大いに楽しい雰囲気での視察会となり今回の目的は十分達成でき、極めて有意義なものとなりました。(文化事業委員会 大下清和)

■北淡震災記念公園・野島断層保存館

平成7年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)はM7.3の最大深度を記録し、死者6433人という戦後最大の被害をもたらした。当淡路島北淡町では、長さ10kmにも及ぶ地震断層が出現、なかでも小倉地区は断層による道路、生垣、畦等の破壊状況が各所で見られ、今なお地震エネルギーの巨大さと複雑な地表面の変化に自然の脅威を感じました。

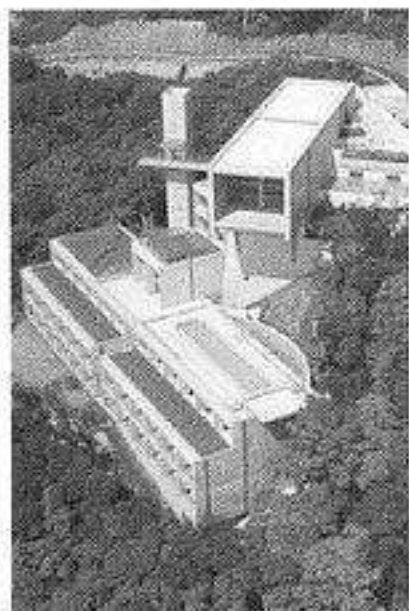


■野水瓦産業・工場

野水産業株式会社は明治18年創業、会社設立昭和40年で、淡路島産出の粘土を成形・焼成し瓦として出荷されて行く過程を見学実感した。淡路瓦400年の伝統を受け継いだ職人の手技や最新技術を駆使した焼成炉設備には驚きを覚えました。景観材としての用途が拡大している。

■TOTOシーウィンド淡路

設計は世界的な建築家・安藤忠雄氏。大阪湾を見下ろす高台に位置し地形に沿って建てられ、周囲の自然に溶け込む。建物のキーワードは「海」。コンクリートの打ち放しの外観や開放感あふれる吹き抜け空間、シンプルでスタイリッシュなラウンジや客室、大阪湾に面したプール、空と海との調和が特長でした。



■竹中大工道具館

近代化の急激な建築生産方式の変革と共に、今日まで日本建築史を飾り支えてきた大工道具の精華はやがて姿を消そうとしています。またその道具を育ててきた鍛冶の技も同様の運命を辿りつつあります。ここでは主として手作りの大工道具を系統的に収集・保存し研究展示を通して工匠の精神と技術を永く後世に伝える目的で開かれており、2万5千点にも及ぼんとする収蔵品には感銘をおぼえました。



竹中大工道具館入り口



展示室



のこぎり展示



式祭用具

■相楽園

神戸市内唯一の日本式庭園、小寺泰次郎氏が明治末期に築造完成した庭園で、回遊式林泉園に加えて欧米化の影響を受けて広場も併設されています。昭和16年神戸市に譲渡されました。旧小寺家蔵舎、旧ハッサム住宅、船屋形、浣心亭などの建物と楠の大木、蘇鉄林など雄大な景観を見ることができました。



旧小寺邸蔵舎



船屋形

■兵庫県立美術館

安藤忠雄氏の設計、美術作品の展示だけでなく様々な美術の融合の場として設計されていた。



海側階段広場



展示室エントランス